

学校評価分析

生徒（青字：よい傾向のもの 赤字：課題があるもの）

1年生

- ・全体的に良好な状態（特に低いポイントはない）
- ・前期より後期が顕著に上がったもの
「学習時間の平均」
- ・前期より後期が顕著に下がったもの
「通信やたよりを読む」
「文化祭や体育祭が充実している」
「学力、体力の向上への取り組み」

2年生

- ・全体的に良好な状態（特に低いポイントはない）
- ・前期より後期が顕著に上がったもの
なし
- ・前期より後期が顕著に下がったもの
「通信やたよりを読む」
「文化祭や体育祭が充実している」
「学力、体力の向上への取り組み」

3年生

- ・全体的に良好な状態（特に低いポイントはない）
- ・前期より後期が顕著に上がったもの
「目標を持った学校生活」
- ・前期より後期が顕著に下がったもの
なし

自由記述

- 「休んだ次の日の対応をしてほしい」
- 「文化祭を合唱コンクールにするのはやめてほしい」
- 「文化祭で屋台を開いてほしい」

保護者（青字：よい傾向のもの 赤字：課題があるもの）

<ul style="list-style-type: none"> ・前期より後期が顕著に上がったもの <ul style="list-style-type: none"> 「楽しく学校生活を送る」 「充実した学校生活を送る」 「地域や保護者と協力をして子どもを育てる」 「意欲が高まる指導方法の工夫」 ・前期より後期が顕著に下がったもの <ul style="list-style-type: none"> なし

自由記述（Q-A）

Q（保護者からのご意見）	A（学校の考えや取り組み）
<p>学校評価アンケートについて、「SSS 運動」や「幸せの木活動」など、内容について詳しくわからなく、また、子供が全部の活動内容を話すわけではないので評価しにくいです。</p>	<p>学校評価アンケートについては、質問項目に「わからない」という選択肢を増やすなど、修正する必要もあると感じています。学校行事や学校の様子は学校だより、学級だより、保健だより、生徒会だより、各委員会だより、部活動だより等でお伝えできているところもございます。これらの伝える活動をこれからも継続し、学校のことをお伝えしていきたいと考えております。ご家庭でも積極的にお子さんと学校の話で会話をさせていただきますようよろしくお願いいたします。</p>
<p>体育祭や文化祭はコロナ前の内容に近づけて欲しい。学校行事について、生徒会だけでなく、企画の段階から生徒会など多種多様な意見を取り入れることの出来る仕組みづくりがあっても良いと感じます。</p>	<p>新しい学習指導要領の実施や労働者の働き方改革の推進等、社会の変化の中でこれまでの活動が、そのまま教育課程内の活動にすることができなくなってきています。多くの学校では、コロナ以前の活動に単に戻すのではなく、中身を精選し、子どもたちに付けさせたい力を再認識しながら、学校行事をはじめとする教育活動を最適化する方法を模索しています。</p> <p>まずは、子どもたちが何をしたいのかを明確にし、「したい、やりたい」想いを、大人（教師を含めた家庭・地域の大人）がくみ</p>

	<p>取り、生徒とともに実現に向けて動いていく形（コミュニティ・スクール）の機能を生かしながら、子どもたちの学びを深める方法を考えていこうと思っています。</p>
<p>中学生が町の行事に参加する取組は、町にも子供達にも活性化につながる。より一層地域と交流してもらえることを期待している。）</p>	<p>「地域とともにある学校」に少しずつ近づけているのではないかと感じています。もはや、家庭や学校だけで子どもの教育ができる時代ではありません。「地域の子どもは地域で育てる」という社会教育の観点も大切にしていきたいと思います。</p>
<p>教員の主体性が一番課題だと感じました。前例踏襲が多いように感じます。先生方は保護者に怯え、周囲を巻き込んで行動変容をどうしたらできるのか戦略を練ることに慣れていない。全く今の時代を捉えていないことで非常に社会的障壁を高めていると痛感しました。学んだうえで専門分野を指導していただきたいです。大学を出ていない一般保護者でも、教育を学べる時代です。これからの保護者は、多くを学んで先生方や管理職との話し合いをする力を持った方々が増えてくると容易に予想できます。</p>	<p>教師は教育のプロでなければならないと思っています。教育のプロとは何をもってプロというのか、「北海道における教員育成指標」に細かく書かれています。 「北海道における教員育成指標」 - 教育庁 学校教育局教職員育成課 (hokkaido.lg.jp) 私たちは、その「求める教師像」近づくべく、研究と修養が義務づけられており、法律でも規定されています。 本校職員は常に「学び続ける教員」として資質能力を高めて参ります。</p>
<p>ALT がたくさんいるのに英語力が上がらないのは何故でしょうか？</p>	<p>日本人の英語能力が上がらないことは、今も昔も課題となっています。本校では、新たな授業方法を取り入れたり、中学校教師を小学校へ派遣し、英語能力を高める取り組みを行っております。現在、小学4年から中学3年までの6年間を見通した教育課程を編成し、シームレスな英語授業を展開しております。その成果は確実に出てくると考えております。</p>
<p>不登校に直面し、苦悩しましたが、振り返ってこの学校で良かったと思える部分が多くありました。繋がってくださった保護者校長先生、対応して下さる先生方が居た</p>	<p>学校のシステムとして困り感を持った子どもたちとどう向き合っていくのか、試行錯誤の毎日でした。 「ステップルームの開設（週2回）」は大き</p>

<p>事によるもので、言い換えれば、運が良かったと思っています。</p> <p>今後、この学校であれば大丈夫と言える様に、風通しや連携など多くの事が受け継がれて行って欲しいと思います。</p>	<p>な効果があったと考えています。自分の居場所を確保できるという意味で効果的でした。</p> <p>また、ステップルーム担当教諭や町不登校専門員の配置など、「誰一人取り残さない支援」に向けて歩みを進めることができたと思います。</p> <p>その他、スクールカウンセラー等の相談事業も心の安定に寄与していると思います。今後も、一人一人をしっかり見つめ育てていけたらと考えています。</p>
<p>勉強にもっとやる気が出るようなやり方とかなないのか。例えば本を読むタイプではない子供に向けてのやる気を引き出す何かをやって欲しい。勉強は何をやったらいいか分かってない。どんな勉強したらいいのか、付属のテキストを解く以外にどうしたらいいのか、学校の定期テスト それ以外のテスト対策としてのそういうポイントとかを分かりやすく伝えて欲しい。</p> <p>家庭学習を課さないでほしい。</p> <p>学習時間を報告させるのもやめてほしい。</p> <p>長期休みを短縮、できれば廃止してほしい。</p>	<p>子どもたちに学ぶ楽しさを伝えることは教師としての最大の仕事であります。私たちプロとしての教師でも、子どものやる気を引き出すのは簡単なことではありません。そのために常に学び続けています。</p> <p>教師による適切な指導ができた上で、私たちが子どもにもとめることは、子ども自身が「自分に合うもの」を考え、選び学んでいく力を付けてもらいことです。「自分は〇〇が得意だから、こういう取り組みをしよう」とか「わたしはここが苦手だから、こういう勉強を頑張ろう」と子ども自身が選択をし、考えて学んでいくことです。これを教育界では「個別最適な学び」と呼んでいます。学習やその方法も含め先生から指示されて学ぶのではなく、先生と生徒がともに考えながら、学習を子ども自身のものにしていくことが肝要だと感じています。</p>
<p>長期休みや公式戦以外の部活の送迎バスを出して下さい。財源は子供手当等のばら撒きの見直しをあてて下さい。宜しくお願い致します。</p>	<p>バスや、手当については、学校に判断権限がありませんので、教育委員会にご意見として報告いたします。</p>
<p>委員会活動がある日は前もって知らせてもらいたいです。お迎えの関係で、迎えに行ってもバスで帰る事になったりする事があ</p>	<p>学級には月間行事予定が掲示されており、毎週の時間割連絡等で活動予定は把握できると思われます。急な変更の場合もあると</p>

ったので、出来れば前日には知っておきたいです。	は思いますが、私たちは予定や情報をもとに子ども自身でスケジュール管理ができるよう育てていきたいと考えております。
-------------------------	--

教師

- ・概ねよい教育活動を行うことができている。
- ・今後の課題
 - 「学年、学級の方針や計画の周知」
 - 「生徒会、学年、」学級のパイプの円滑化
 - 「生徒会活動、学級活動の自主的・協力的な活動」
 - 「今日的な課題解決のために校内研修」